

# 「時こくと時間のもとめ方」 かかった時間と時こくをもとめてみよう

## 「時計の読み方」と「かかった時間」（ふくしゅう）

1年生と2年生では、「時計の読み方」や「時こく」、「かかった時間」のもとめ方について勉強したね。

少しふくしゅうをしてから3年生の学習をしよう。ることができる。

## 時計の読み方（1年生のふくしゅう）

1年生では、「時計の読み方」を勉強したよね。

短いはりは「時間」、長いはりが「分」をあらわしているんだよね。

たとえば下の時計は短いはりは「1」をさしていて、長いはりが「12」をさしているから、「ちょうど1時」だとわかるよね。



## かかった時間（2年生のふくしゅう）

2年生では、「かかった時間」をもとめる方法を勉強したよね。

3年生では、もう少しレベルアップするんだ。だから、しっかり2年生の内  
ようをふくしゅうしておこう。

次の問題を考えよう。

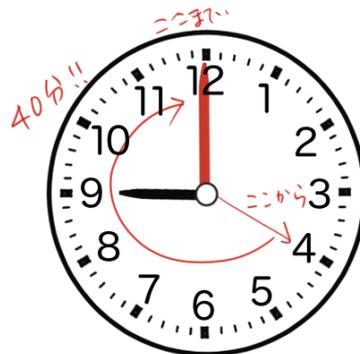
たろうくんは、午前8時20分に家を出て、おばあちゃんの家まで  
行きました。おばあちゃんの家についたのは午前10時です。

たろうくんの家から、おばあちゃんの家までかかった時間は、  
どれだけですか。

「8時から10時になったから、2時間だ!」と考えてはいけないんだっ  
たよね。

このようなときは、まず長いはり（分）だけを かんがえて、キリのいい時  
間にしてしまおう。

「8時20分から10時00分まで」ということだから、長いはりは「4」  
のところからちょうど「12」のところまで動くね。



8時20分から ちょうど9時までは、40分だよね。  
(まよったら、 5、10、15・・・と 数えてみよう)

次に、9時から10時は1時間だから、  
たろうくんの家から、おばあちゃんの家までかかった時間は  
40分と1時間を合わせて、1時間40分ともとめることができるね。

かかった時間をもとめるポイント

・キリのよい時こく（ちょうどの時こく）までの時間を考える

## かかった時間のもとのめ方

2年生で学習した「かかった時間のもとのめ方」が、3年生になると少しレベルアップするんだ。

2年生では「8時20分から10時00分までかかった時間」みたいな問題  
だったんだけど、  
3年生になると「8時20分から9時10分までかかった時間」のような問  
題になるんだ。

ただ、かかった時間のもとのめ方のポイントは  
キリのよい時こくまでの時間を考える  
と、さっきと同じだよ。

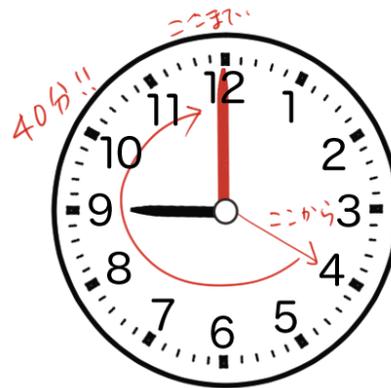
問題を見てみよう。

たろうくんは、午前8時20分に家を出て、おばあちゃんの家まで行きました。おばあちゃんの家についたのは午前9時10分です。

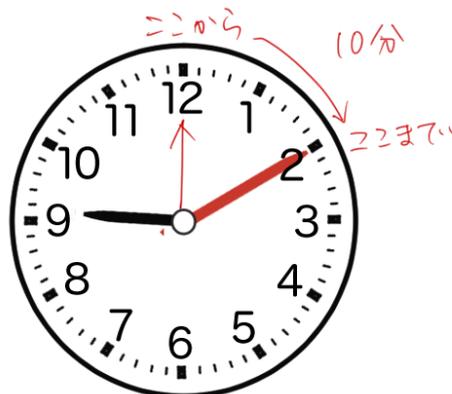
たろうくんの家から、おばあちゃんの家までかかった時間は、どれだけですか。

このようなときは、まず長いはり（分）だけを考えて、キリのいい時間にしてしまおう。

8時20分から、ちょうど9時00分までは、40分だよね。



あとは、9時00分から9時10分までは、10分だよね。



ということは、  
たろうくんの家から、おばあちゃんの家までかかった時間は  
40分と10分を合わせて、50分ともとめることができるね。

## 時こくのもとめ方

「時こくのもとめ方」とは、「〇〇したのは何時何分か？」をもとめることだよ。

時こくをもとめる問題には、つぎのように2つのパターンがあるんだ。

### ①ゴールした時こくを求める問題

【例】8時40分に家を出て、30分歩くと学校に着きました。学校に着いた時こくは何時何分ですか？

### ②スタートした時こくを求める問題

【例】家を出て30分あるいて、9時10分に学校に着きました。家を出た時こくは何時何分ですか？

①と②の問題の考え方をじゅんばんにしょうかいしていくね。

## ゴールした時こくのもとめ方

たろうくんは午前8時40分に家を出て、30分歩くと学校に着きました。学校に着いた時こくをもとめなさい。

### もとめ方①たし算（筆算）する

「午前8時40分」から「30分歩く」ということは、学校に着く時間をもとめるには「午前8時40分」に「30分」をたし算すると考えてみよう。

いつものたし算のように、筆算するとわかりやすいよ。

	8	時	4	0	分
+			3	0	分
	8	時	7	0	分

そのままたし算すると、「午前8時70分」になるよね。

「分」は60分までだから、はんぱな10分をくりあげて、「時間」を1増やそう。

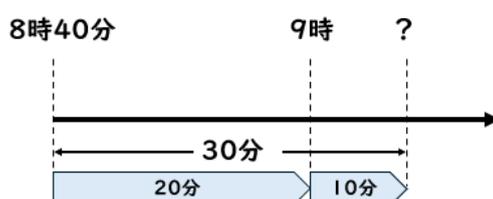
	8	時	4	0	分
+			3	0	分
	<del>8</del>	時	<del>7</del>	<del>0</del>	分
	9		1	0	

午前9時10分と もとめることができたね。

## もとめ方②キリのよい時こくまでの時間を考える

午前8時40分から、キリのよい時こく「午前9時」までの時間を考えてみよう。

午前8時40分から午前9時までは、「20分」だよな。  
なので、「30分」を20分と10分に分けよう。



午前8時40分に20分をたして、午前9時にしたら、そこから残りの10分をたすから、答えは午前9時10分と もとめられるよ。

## スタートした時こくのもとめ方

たろうくんは、家を出て30分歩いて、9時10分に学校に着きました。  
家を出た時こくをもとめましょう。

## もとめ方①ひき算（筆算）する

家を出て「30分歩いて」、「午前9時10分」に着くということは、  
家を出た時間をもとめるには、「午前9時10分」から「30分」をひき算  
したらいいね。

でも「10分」から「30分」を引くことができないよね。  
 そんなときは、いつもの筆算のときとおなじように、「くりさげ」をしよう。

「1時間」は「60分」だから、「時間」を1つへらして、「分」に「60」をたすよ。

そうすると、「9時10分」は、「8時70分」になるね。

	8		7	0	
	9	時	<del>1</del>	<del>0</del>	分
-			3	0	分

あとはひき算の筆算をしたらいいね。

	8		7	0	
	9	時	<del>1</del>	<del>0</del>	分
-			3	0	分
	8	時	4	0	分

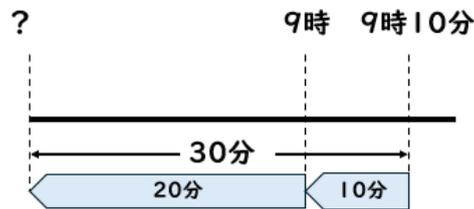
「9時10分」から30分をひくと、「8時40分」になったね。

家を出た時間は、8時40分と もとめることができたね。

### もとめ方②キリのよい時こくまでの時間を考える

午前9時10分から、キリのよい時こく「午前9時」までの時間を考えてみよう。

午前9時10分から午前9時までは、「10分」だね。  
なので、「30分」を10分と20分に分けよう。



午前9時10分から10分をひいて、午前9時ちょうどになるよね。  
そこからさらに20分をひくから、答えは午前8時40分ともとめられるよ。

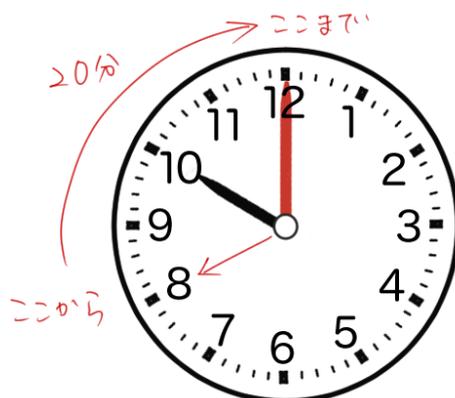
## 時こくと時間のもとのめ方の練習問題

たろうくんは、午前9時40分に家を出て、おばあちゃんの家まで行きました。おばあちゃんの家についたのは午前10時30分です。

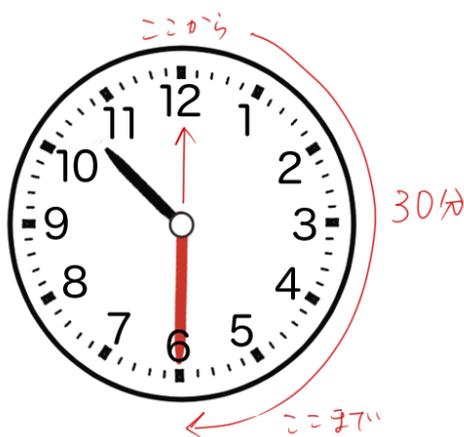
たろうくんの家から、おばあちゃんの家までかかった時間は、どれだけですか。

このようなときは、まず長いはり（分）だけを考えて、キリのいい時間にしてしまおう。

9時40分から ちょうど10時00分までは、20分だよ。



あとは、10時00分から10時30分までは、30分だよ。



ということは、  
たろうくんの家から、おばあちゃんの家までかかった時間は  
20分と30分を合わせて、50分ともとめることができるね。

たろうくんは午前7時50分に家を出て、40分歩くと学校に着きました。学校に着いた時こくをもとめなさい。

もとめ方①筆算をする

午前7時50分から40分歩くということは、  
学校に着く時間は

午前7時50分に40分をたし算して午前7時90分みたいになるよね。

	7	時	5	0	分
+			4	0	分
<hr/>					
	7	時	9	0	分

ただ、分は60分までだから、はんばな30分を  
くりあげて、午前8時30分と もとめられるよ。

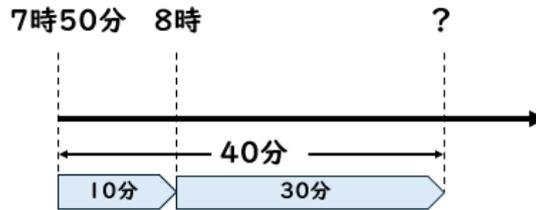
	7	時	5	0	分
+			4	0	分
<hr/>					
	<del>7</del>	時	<del>9</del>	<del>0</del>	分
	8		3	0	

答え 午前8時30分

もとめ方②キリのよい時こくまでを考える

午前7時50分から、キリのよい午前8時までの時間は10分だよね。  
なので、40分を10分と30分に分けよう。

午前7時50分から10分後は午前8時ちょうどになるよね。  
 そこから30分後だから午前8時30分ともめられるよ。



答え 午前8時30分

たろうくんは、家を出て50分歩いて、8時40分に学校に着きました。  
 家を出た時こくをもとめましょう。

もとめ方①筆算をする

家を出て50分歩いて、午前8時40分に着くということは、  
 家を出た時間は  
 午前8時40分から50分をひき算したらいいね。

ただ、40分から50分を引くことができないよね。  
 1時間は60分だから、くりさげみたいにしてひき算しよう。

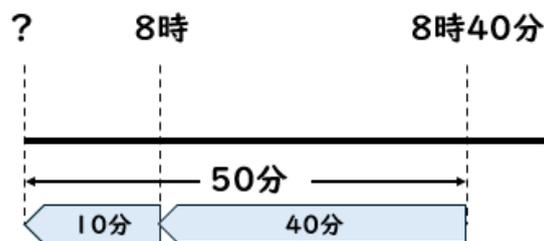
	7		1	0	0
	<del>8</del>	時	<del>4</del>	<del>0</del>	分
-			5	0	分
	7	時	5	0	分

答え 午前7時50分

もとめ方②キリのよい時こくまでを考える

午前8時40分から、午前8時までは40分だよね。  
なので、50分を40分と10分に分けよう。

午前8時40分の40分前は午前8時ちょうどになるよね。  
そこからさらに10分前だから午前7時50分と もとめられるよ。



答え 午前7時50分

## 「時こくと時間のもとめ方」まとめ

- ・かかった時間をもとめるには、キリのよい時こく（ちょうどの時こく）を考えるとよい。
- ・スタートした時間やゴールした時間をもとめるには、ひっ算のように考える方ほうや、キリのよい時間にわけて考える方ほうがある。